

# 数学演習第二 (演習第2回)

線形：直線・平面の方程式と外積

2018年10月10日 実施

1

[内積, 外積] (線形 p.4, p.8)

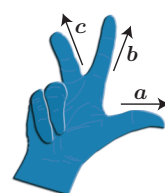
- 空間ベクトル  $\mathbf{a} = \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{b} = \begin{bmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{bmatrix}$  に対して, ノルム (大きさ)  $\|\mathbf{a}\| := \sqrt{a_1^2 + a_2^2 + a_3^2}$ ,

$$\text{内積 } \mathbf{a} \cdot \mathbf{b} := a_1b_1 + a_2b_2 + a_3b_3 (= \mathbf{b} \cdot \mathbf{a}), \quad \text{外積 } \mathbf{a} \times \mathbf{b} := \begin{bmatrix} a_2b_3 - a_3b_2 \\ a_3b_1 - a_1b_3 \\ a_1b_2 - a_2b_1 \end{bmatrix} (= -\mathbf{b} \times \mathbf{a})$$

が定義される (ノルム, 内積が  $\mathbb{R}^n$  のベクトルに対しても同様に定義されることは周知の通り).  $\mathbf{a}, \mathbf{b} \neq \mathbf{0}$  のとき,  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  のなす角を  $\theta$  ( $0 \leq \theta \leq \pi$ ) とすれば,  $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = \|\mathbf{a}\| \|\mathbf{b}\| \cos \theta$  が成り立つ. また,  $\mathbf{a}, \mathbf{b} \in \mathbb{R}^3$  が1次独立のとき,  $\mathbf{a} \times \mathbf{b} \in \mathbb{R}^3$  は次の性質により特徴付けられる (一意に定まる):

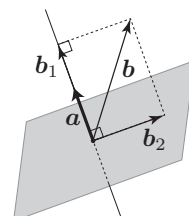
- ①  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  の両方と直交, ②  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{a} \times \mathbf{b}$  は右手系, ③  $\|\mathbf{a} \times \mathbf{b}\| = (\mathbf{a}, \mathbf{b}$  の作る平行四辺形の面積).

- $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c} \in \mathbb{R}^3$  が右手系 (をなす) とは, 右手の親指, 人差し指, 中指の3本だけを立てたとき, 3本の指が指す方向をこの順に  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  の方向に合わせることができることをいう. 特に,  $\mathbb{R}^3$  の基本ベクトル  $\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \mathbf{e}_3$  は右手系をなす. 行列式を用いれば,  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c} \in \mathbb{R}^3$  が右手系とは,  $\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{c}] > 0$  であることに他ならない. ここで,  $\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{c}]$  は  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  を3列に並べてできる行列  $[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{c}]$  の行列式を表す.



(1)  $\mathbf{u} = \begin{bmatrix} 1 \\ 3 \\ -2 \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{v} = \begin{bmatrix} 2 \\ -1 \\ 3 \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{w} = \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ -1 \end{bmatrix}$  に対して,  $(\mathbf{u} \times \mathbf{v}) \times \mathbf{w}$ ,  $\mathbf{u} \times (\mathbf{v} \times \mathbf{w})$  を計算せよ.

- (2)  $\mathbf{a}, \mathbf{b} \in \mathbb{R}^3$ ,  $\mathbf{a} \neq \mathbf{0}$  のとき,  $\mathbf{b}$  を  $\mathbf{b} = \mathbf{b}_1 + \mathbf{b}_2$  ( $\mathbf{b}_1 = t\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}_2 \cdot \mathbf{a} = 0$ ) の形に分解せよ. (このとき,  $\mathbf{b}_1$  を  $\mathbf{b}$  の「 $\mathbf{a}$  方向の直線」への正射影 (または  $\mathbf{a}$  への正射影),  $\mathbf{b}_2$  を  $\mathbf{b}$  の「 $\mathbf{a}$  を法線ベクトルとする平面」への正射影と呼ぶ.) 更に,  $\|\mathbf{b}_1\|$  と  $\|\mathbf{b}_2\|$  を  $\|\mathbf{a}\|$ ,  $\|\mathbf{b}\|$ ,  $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}$ ,  $\|\mathbf{a} \times \mathbf{b}\|$  を用いて表せ (2) の説明も見よ).



- (3) (1) の  $\mathbf{u}, \mathbf{v}$  に対して,  $\mathbf{u} \cdot \mathbf{v}$ ,  $\|\mathbf{u}\|$ ,  $\|\mathbf{v}\|$ , “ $\mathbf{u}, \mathbf{v}$  のなす角”, “ $\mathbf{v}$  の  $\mathbf{u}$  への正射影” を求めよ.

- (4)  $\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{c}]$  ( $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c} \in \mathbb{R}^3$ ) を第3列に関して余因子展開して  $\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{c}] = (\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot \mathbf{c}$  を示せ. 更に, この関係式を用いて, 次を示せ: ①  $(\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot \mathbf{a} = (\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot \mathbf{b} = 0$ , ②  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  が1次独立ならば  $\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{a} \times \mathbf{b}] > 0$  (すなわち  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{a} \times \mathbf{b}$  が右手系).

- (5)  $\mathbf{a}, \mathbf{b} \in \mathbb{R}^3$ , 3次直交行列  $Q$  ( $\stackrel{\text{def}}{\Leftrightarrow} {}^tQQ = Q{}^tQ = E$ ) に対して,  $Q\mathbf{a} \cdot Q\mathbf{b} = \mathbf{a} \cdot \mathbf{b}$  (従って  $\|Q\mathbf{a}\| = \|\mathbf{a}\|$ ) 及び  $Q\mathbf{a} \times Q\mathbf{b} = \pm Q(\mathbf{a} \times \mathbf{b})$  ( $\pm$  は  $\det Q \in \{\pm 1\}$  の符号を表す) を示せ.

2

[面積, 体積] (線形 p.6, p.8, pp.85–86)

- $\mathbf{a}, \mathbf{b} \in \mathbb{R}^2$  (平面ベクトル) に対して,  
 $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  の作る平行四辺形の面積  $S = |\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b}]| (= \sqrt{\|\mathbf{a}\|^2 \|\mathbf{b}\|^2 - (\mathbf{a} \cdot \mathbf{b})^2})$ .
- $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c} \in \mathbb{R}^3$  (空間ベクトル) に対して,  
 $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  の作る平行四辺形の面積  $S = \|\mathbf{a} \times \mathbf{b}\| (= \sqrt{\|\mathbf{a}\|^2 \|\mathbf{b}\|^2 - (\mathbf{a} \cdot \mathbf{b})^2})$ ,  
 $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  の作る平行六面体の体積  $V = |\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{c}]| (= |(\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot \mathbf{c}| = |\mathbf{a} \cdot (\mathbf{b} \times \mathbf{c})|)$ .

- (1)  $A(1, -2)$ ,  $B(-1, 3)$ ,  $C(3, 2)$  のとき,  $\triangle ABC$  の面積を求めよ.

- (2)  $A(-1, 2, 1)$ ,  $B(1, 0, -3)$ ,  $C(-4, 1, 2)$ ,  $D(2, -1, 1)$  のとき,  $\triangle ABC$  の面積, 四面体  $ABCD$  の体積を求めよ. ( $\overrightarrow{AB}, \overrightarrow{AC}$  の作る平行四辺形,  $\overrightarrow{AB}, \overrightarrow{AC}, \overrightarrow{AD}$  の作る平行六面体を考えよ.)

ここでは、 $\mathbf{x}_0 = \begin{bmatrix} x_0 \\ y_0 \\ z_0 \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{x} = \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{a} = \begin{bmatrix} a \\ b \\ c \end{bmatrix}$  とし、点  $(x_0, y_0, z_0)$  と位置ベクトル  $\mathbf{x}_0$  を同一視する。

㉑ 点  $\mathbf{x}_0$  を通り、 $\mathbf{a} \neq 0$  を**方向ベクトル**とする直線  $l$  は ( $l$  上の任意の点を  $\mathbf{x}$  として)

$$\mathbf{x} = \mathbf{x}_0 + t\mathbf{a} \quad (\text{直線 } l \text{ のベクトル方程式})$$

と表される。これを成分表示し、パラメータ  $t$  を消去することにより、

$$\frac{x - x_0}{a} = \frac{y - y_0}{b} = \frac{z - z_0}{c} \quad (\text{直線 } l \text{ の方程式})$$

が得られる。(この表現は  $abc \neq 0$  のときのみ意味を持つ。例えば  $a = 0, bc \neq 0$  なら、 $x = x_0, \frac{y - y_0}{b} = \frac{z - z_0}{c}$  となる.)

㉒ 点  $\mathbf{x}_0$  を通り、ベクトル  $\mathbf{b}, \mathbf{c}$  (1次独立) で‘張られる’平面  $\alpha$  は ( $\alpha$  上の任意の点を  $\mathbf{x}$  として)

$$\mathbf{x} = \mathbf{x}_0 + s\mathbf{b} + t\mathbf{c} \quad (\text{平面 } \alpha \text{ のベクトル方程式})$$

と表される。平面  $\alpha$  の**法線ベクトル**  $\mathbf{a}$  (例えば  $\mathbf{a} = \mathbf{b} \times \mathbf{c}$ ) と上式との内積をとれば、パラメータ  $s, t$  が消去され、 $\mathbf{a} \cdot (\mathbf{x} - \mathbf{x}_0) = 0$  が得られる (点  $\mathbf{x}_0$  を通り、 $\mathbf{a}$  を法線ベクトルとする平面)。これを成分表示して、

$$a(x - x_0) + b(y - y_0) + c(z - z_0) = 0 \quad (\text{平面 } \alpha \text{ の方程式})$$

を得る。(通常は  $ax + by + cz + d = 0$  あるいは  $ax + by + cz = d'$  の形に整理する.)

(1) ① (2) を利用して次を示せ。

① 点  $\mathbf{x}_1$  と ㉑ の直線の距離 (垂線の長さ) は  $\frac{\|\mathbf{a} \times (\mathbf{x}_1 - \mathbf{x}_0)\|}{\|\mathbf{a}\|}$  で与えられる。

② 点  $\mathbf{x}_1$  と ㉒ の平面  $\mathbf{a} \cdot (\mathbf{x} - \mathbf{x}_0) = 0$  との距離 (垂線の長さ) は  $\frac{|\mathbf{a} \cdot (\mathbf{x}_1 - \mathbf{x}_0)|}{\|\mathbf{a}\|}$  で与

えられる。平面が  $ax + by + cz + d = 0$  の形なら  $\frac{|ax_1 + by_1 + cz_1 + d|}{\sqrt{a^2 + b^2 + c^2}}$  となる。

(2) A(1, 1, 0), B(2, -2, 3), C(3, -1, 1), D(-1, 3, 4) とする。① 直線 AB (2点 A, B を通る直線) の方程式を求めよ。② 平面 ABC (3点 A, B, C を通る平面) の方程式を求めよ。(まず法線ベクトル  $\overrightarrow{AB} \times \overrightarrow{AC}$  を求めよ。) また、点 D とこの平面の距離を求めよ。③ 点 A を通る平面 ABC の**法線** ( $l$  とする) の方程式を求めよ。また、点 D と直線  $l$  の距離を求めよ。

【注】②, ③ の距離は、それぞれ点 D から平面 ABC, 直線  $l$  に下ろした垂線の長さには他ならない。この点に注目すれば (1) を利用しなくても計算できる (まず“垂線の足”の座標を求める)。

(3) 2平面  $\alpha: x + y - 3z = 1, \beta: 2x + y + z = -1$  に対して、① 2平面  $\alpha, \beta$  の交線の方程式を求めよ。(交線の方向ベクトルは2平面の法線ベクトルと直交することに注意。また、交線が通る点としては例えば  $xy$  平面との交点を考えるとよい。あるいは、交線上の点を連立1次方程式の解の集合と考えてもよい。) ② 2平面  $\alpha, \beta$  のなす角を求めよ。

(4) 直線  $l: \frac{x-4}{5} = \frac{y+1}{3} = \frac{z+2}{-4}$  と平面  $\alpha: 5x - 4y - 3z = 5$  に対して、① 直線  $l$  と平面  $\alpha$  の交点  $\mathbf{x}_0$  を求めよ。② 直線  $l$  を平面  $\alpha$  上に正射影して得られる直線  $m$  ( $\mathbf{x}_0$  を通り、“ $l$  の方向ベクトルの平面  $\alpha$  への正射影”を方向ベクトルとする直線) の方程式を求めよ。③ 2直線  $l, m$  のなす角 (= 直線  $l$  と平面  $\alpha$  のなす角) を求めよ。④ 2直線  $l, m$  を含む平面の方程式を求めよ。